

平成二十七年度「花のまわりみち」

川柳入選句

小島 蘭幸 選

天地人・秀逸

「天位」

平和の彩で今年も咲いたまわりみち

米沢美智恵（美智恵）

（評）

戦後七十年、「平和の彩」に作者の熱い思いが凝縮されています。

「地位」

生きている今を桜が咲き競う

楠山東石子（東石子）

（評）

今を生きていることの幸せが、キュンと伝わってきます。花のまわりみちの桜達も一生懸命咲いています。

「人位」

日暮らしに元気を貰う退院後

瀬戸 れい子

（評）

今年の花「日暮」、その淡いピンクの美しさに生きる力をいただかれたんですね。

「秀逸」 (五句)

祖父と見た桜そのまま懐かしい

勝田 浩

(評)

祖父と一緒に初めて行った時のことを思うと、懐かしさでいっぱいです。

かわいいさくらぼくたちをみてわらってる

おおたそら (小1)

(評)

ニッコリと迎えてくれた、花のまわりみちの桜達を、かわいいと詠んだ作者の感性が光ります。

何も彼も忘れ一刻花に酔う

中植 紀子

(評)

花のまわりみちの桜達は、苦も哀も一瞬で忘れさせてくれるのです。

ツーショット今年の花の日暮と

正木 巧

(評)

昨年の花「花笠」、今年の花「日暮」、ツーショット写真が溜まります。

久々に妻と桜の散歩道

森田 喜美子

(評)

一緒に歩いた嬉しさがしみじみと伝わってきます。元気になられたのですね。

佳作

(十八句)

桜みちさがしてまわる一本の樹	西 畠 博
今日もまた来たサクラミチまわりみち	塩 見 顕一郎
エバヤマザクラ健気に一つ咲いている	川 平 厚
深呼吸して花の門くぐりけり	中 植 勝 己
老妻とひぐらし探すまわりみち	石 原 一
おおてまりみあげる父のくるまいます	油 目 忠 之
友と逢い昔を語るさくら道	松 井 哲 夫
花の名を覚えきれずにまわりみち	油 目 博 子
満開が好き散り際はもつと好き	山 本 博 汎
桜咲き我が青春も花盛り	末 若 浩 子
コートぬぎ桜の道へ迷い込む	山 下 ひろこ
花びらが話しているよねがいごと	望月 菜帆(8才)
桜見る我が子の笑みにいやされて	西 畠 悟
日暮が恥じらいみせて初舞台	正 山 史 明
花ぐもり日ぐらし映えてまわりみち	小 山 育 恵
日暮を焼き付け友にするメール	飛 田 陽 子
寄り添って花びら染まる日暮よ	兒 玉 美 佐 子
夜の闇浮き出る桜我に寄る	久 保 由 貴 子(おゆき)

選者吟

御衣黄おんいこうが咲いた亡父がほほえんだ

小島 蘭 幸